

## 宝蔵院流槍術

宝蔵院流槍術は、柳生新陰流兵法と共に奈良が発祥の日本を代表する古武道です。

その流祖・胤栄（いんえい：1521-1607）は興福寺の僧で、武芸を好み、槍の修練に努め、ついに穂先に特徴のある鎌槍（かまやり）を創出し、宝蔵院流槍術を創めました。宝蔵院流槍術の鎌槍は攻撃と防御に優れて全国を風靡し、日本を代表する最大の槍術流派として発展しました。現在では本拠地・奈良を中心に約100名の伝習者が日本国内各地とドイツの各道場において稽古に励んでいます。

## 一般社団法人宝蔵院流槍術護持会

一般社団法人宝蔵院流槍術護持会は、宝蔵院流高田派槍術の宗家及び免許皆伝者で組織する一般社団法人で、宝蔵院流槍術の流儀を維持していくため財産管理等を行う団体。ハナガカシの保育も担う。

## 奈良宝蔵院流槍術保存会

奈良宝蔵院流槍術保存会は、平成3年6月の西川源内 第十九世宝蔵院流高田派槍術宗家から、鍵田忠兵衛 第二十世宗家への継承式挙行を機に、保存と槍術文化及び奈良市の観光発展の為に奈良市、興福寺、観光、剣道、銃剣道、なぎなた関係者で結成された宝蔵院流槍術の後援団体。

## ハナガカシ

ハナガカシはブナ科コナラ属の常緑広葉樹で、主幹はまっすぐに伸び、高さ約20mになる。九州（宮崎県、熊本県、鹿児島県）や四国（愛媛県、高知県）に稀産する。葉は互生し、葉身は長さ5～15cm、幅1～3cmの狭披針形で、皮革質でかたく、濃い緑色をしている。先端は鋭く尖り、上半部の縁には鋸歯がある。両面とも無毛である。

まっすぐな主幹および優れた堅さと弾力性を持つことから、槍柄材として江戸幕府将軍家に直納された歴史をもつ。



（宝蔵院流槍術保存会 育成中）

## ハナガカシ育苗の経緯

2014 (H26) 年 1 月 20 日に、宝蔵院流槍術保存会より森林技術センターへハナガカシの種まき (播種)、育苗に関して依頼があり、ハナガカシの播種やタネの保存、移植など苗づくりに関わってきました。協定締結までのハナガカシ育苗の経緯を紹介します。

なお、2016 年 12 月 1 日にハナガカシ林の協定締結後、12 月 10 日の記念植樹を経て、50 年にわたる長期の保育指導・調査を行うこととなります。

2014 (H26) 年 4 月 28 日

状況確認：ハナガカシの芽生えの状況確認。カシ根は直根が長く伸びるので、通常では根が鉢の中で巻いてしまい、植林に不向きな形状になる恐れがあるため、梅雨時に植え換えすることにする。



2014 (H26) 年 6 月 28 日

移植指導：発芽した芽生えをタケ筒を利用した鉢に移植。





2015 (H27) 年 2 月 12 日

播種指導：2014 年秋、九州で採取したハナガカシを播種。

前回は、幼苗をタケ筒に移植したが、今回、タケ筒の中に播種することにした。

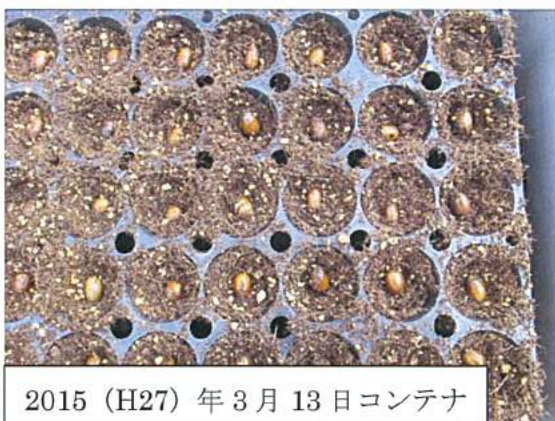


2015 (H27) 年 3 月 13 日

森林技術センターでコンテナにハナガカシを播種。

宝蔵院流槍術保存会よりハナガカシのタネをいただき、コンテナに播種しました。

コンテナ苗として植林する予定です。



2016 (H28) 年 5 月 12 日時点でのハナガカシ



**2015 (H27) 年 10 月 22 日**

ハナガカシ苗の植栽場所の選定。ハナガカシは肥沃な土地を好む。また植栽後、保育・管理のしやすい場所等を考慮して、上牧町下牧の山林に決定した。植林するには、除伐等、林内整理が必要である。また、搬出のための作業道もつくる予定。



**2016 年 12 月 1 日**

成育管理指導協定書の締結（於：奈良市春日野町 160 春日大社 貴賓館）。

**2016 年 12 月 10 日**

ハナガカシ記念植樹。奈良県北葛城郡上牧町。